

自動計量機

HS型シリーズ

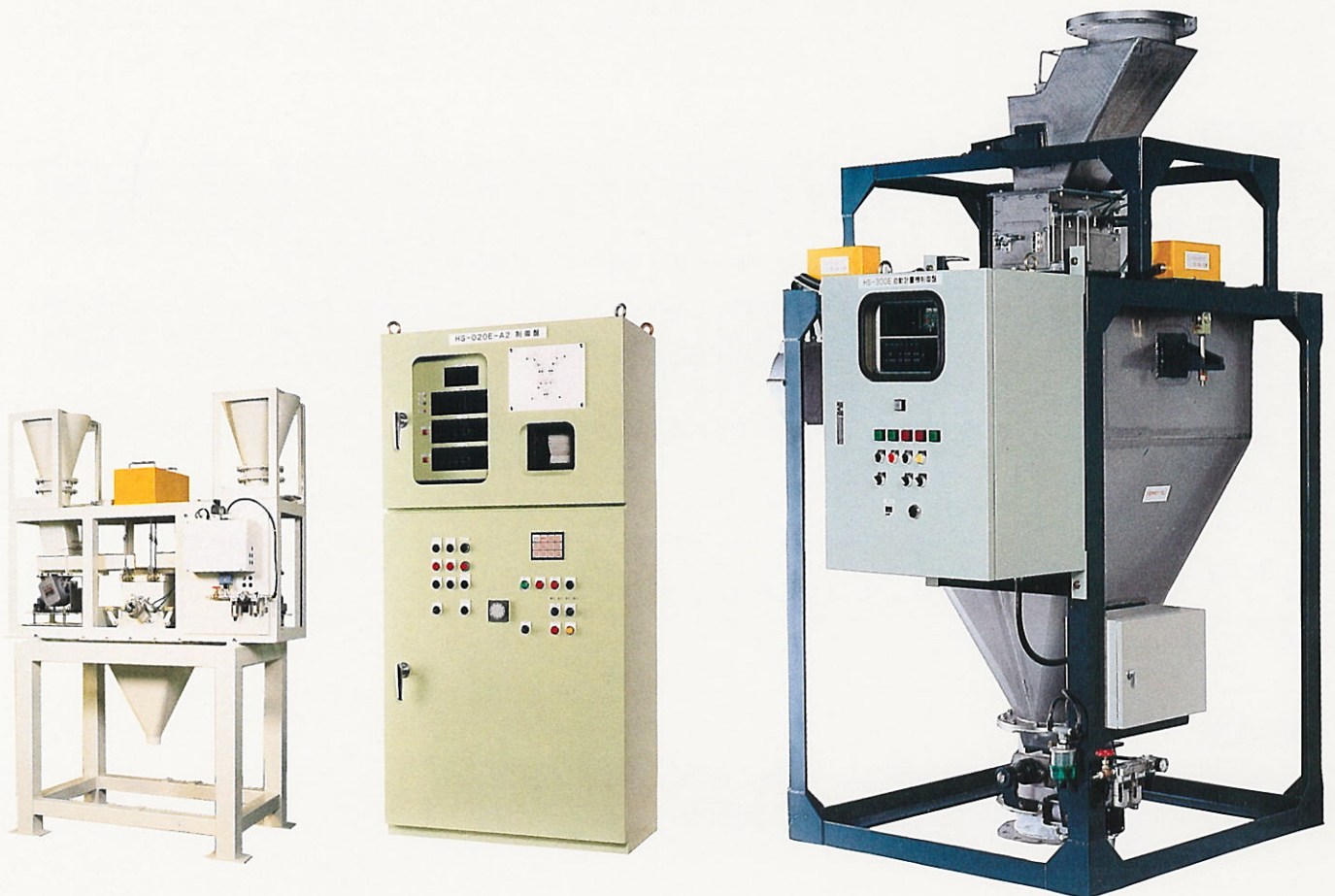
電子式ホッパースケール

特長

本機は粉体、粒体、塊状体、液体を貯蔵槽より切り出しホッパーに投入し計量するもので、各種産業の数種類の製品の受け払い等の自動計量に多く使用され遠隔指示制御、データ処理等の集中管理に役立っております。用途として原料受入用、配合用、製品出荷用（バラ出荷・コンテナ出荷）、混合機投入用等があります。

重量検出はロードセル3点または4点支持方式を採用している為、常に安定した高能力、高精度が保たれます。ロードセルと電子制御システムによりオート零機構、過・不足判別装置を標準装備しております。プリンター等、オプションが容易に取付けられます。

従来の衡桿式とは違い、刃、刃受の研磨、取替え作業の必要もなく保守が容易です。



CHIBA DORYOKO CO., LTD.

■型式

型 式	測 定 量
HS-001E型	~5kg
HS-005E型	5~10kg
HS-050E型	10~100kg
HS-300E型	100~300kg
HS-500E型	300~500kg
HS-1000E型	500~2000kg

累積計量記号 A 累積計量品種を型式の後に付記する。
 (例) 6品種累積で500kg計量する場合
 HS-500E-A6型

排出計量記号 D 排出機器名を型式の後に付記する。
 ベルトフィーダ B、スクリューフィーダ S
 振動フィーダ F、ロータリーバルブ R
 (カットゲートはDのみ)
 (例) 300kgの排出をスクリューフィーダで行う場合
 HS-300E-DS型

■種類

定量計量型	いわゆる一般的なホッパースケールで、毎回一定量づつ計量する方式。
累積計量型	異なる複数の原料をそれぞれの設定値に応じて順次1台の計量ホッパーに投入し、累積して計量する方式。
排出計量型	計量ホッパーに供給された任意量を計量した後、計量ホッパー内の原料を所定量設定値に応じて、排出計量する方式。
移動式	自走式ホッパースケールによる配合計量及び移動排出装置です。スケールカーが原料タンク下に移動し配合計量を行うため、固定式ホッパースケールに比べ設置台数を減らすことができます。
実量計量型	毎回の実量計量値を累積加算する計量方式。計量に要する時間が大幅に短縮されます。サイロ受入用として、実質精度を高めることができます。

■構造

供給装置	原料を計量ホッパーへ供給する装置で、2段又は3段制御方式を行います。精度の維持の為に、重要な要素ですので原料に合った供給装置の選定が必要となります。カットゲート、振動フィーダ、スクリューフィーダ、ベルトフィーダ、ロータリーバルブ、テーブルフィーダ、流体用バルブなどがあります。粉粒体の性状によっては異種の供給装置を組み合わせて使用することがあります。
計量ホッパー	計量するために一時原料を収容する容器で、原料の性状に適した構造で測定範囲の上限まで十分に原料が収容出来る容積が必要となります。形状としては角錐、円錐、長方体等各種あり原料の性状に合わせて選定します。直接接粉部材質は原料に合わせ、SUS304の内面バフ仕上げ、テフロンシート貼り、超高分子量ポリエチレンシート貼り等があります。
排出装置	計量ホッパーの下部に位置して原料を排出する装置であり、機構としては供給装置と同様なものの中から選定します。
計量装置	重量検出はロードセル3点、4点支持方式を採用している為、常に安定した高能力、高精度が保たれます。
制御装置	計量装置からの電気信号を受け、供給装置などを設定条件に応じて制御します。供給装置の制御は、デジタル設定値との比較などにより、2段又は3段制御を行います。所定量の設定はテジスイッチ、テンキー入力方式、CRT画面を備えた制御もあります。

■用途

原料の受入、製品の出荷、混合機投入、原料の配合、押出し機投入、フレキシブルコンテナバッグ計量用、添加剤計量

